

世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会
2023 年度平和大学講座

2024 年 3 月 14 日

【会 場】浄土宗宗務庁（京都）

「諸宗教における人間性の教育を語る ――他者の痛みへの共感を育むために」

―イスラームの立場から―

森伸生

拓殖大学イスラーム研究所

1. はじめに

- ・イスラームの教えを踏まえ、人間性教育の重要性と共感の育成について考える。
- ・他者を理解し共感する力が、より公正で平和な社会構築の一步となることを願いつつ。

2. イスラームの人間性と共同体

- ・人間は神によって創造された尊厳ある存在。
【本当にわれ（アッラー）は、人間を最も美しい姿に創った。】（クルアーン Q95 章 4 節）
- ・人間が万物を管理する責任を負う。
- ・人間は理性と自由意志が付与され、平等で尊重されるべき存在。
【われ（アッラー）は地上に代理人を置くであろう】（Q2 章 30 節）

・人間は独自の尊厳と権利を持ち、これらは侵されるべきではなく、知識、理性、自由意志、道徳的判断といった特質により他の存在から区別され、公正と責任が行動の基準とされている。これらを総称して「人間性」とよぶ。

・人間性の保護: シャリーア（イスラーム法：人の生きる道）に基づく社会的共生の必要性。

預言者の言葉《ムスリム達（の共同体）は一個の人体のようなものである。もし彼の目が不調を訴えれば、体のすべてが不調を訴える。また彼の頭が不調を訴えれば、彼の体の全てが不調を訴える。》（ハディース：預言者の言行録から）

3. イスラームにおける教育の理念とクドワ・ハサナ（良き模範）

- ・クドワ・ハサナ: 良き模範としての預言者ムハンマドの生涯。

【本当にアッラーの使徒は、アッラーと終末の日を熱望する者、アッラーを晶念する者にとって、立派な模範であった。】(Q33 章 21 節)

預言者の言葉《私は、優れた人格を完全なものとするために送られた。》

・教育の目的: 知識の伝達と共に、倫理的、道徳的価値の実践。

4. 共感、共存におけるクドワ・ハサナの実践

・共感を生む慈しみの心:

預言者の言葉《慈しみ深い者を慈愛あまねくお方は慈しみたまいます。地にある者を慈しみなさい。そうすれば、天にいるお方があなた方を慈しんでくださいます。》

・相互理解と信頼: 多様性の中から共通点を見つけることの重要性。

【人びとよ、我は一人の男と一人の女から、あなた方をつくり、そして種族と部族に分けた。これは、あなた方を互いに知り合うようにさせるためである。アッラーの御許で最も貴い者は、あなた方の中で最も主を畏れる者である】(Q49 章 13 節)

・和平、共存、相互理解を促進:

・公正さの重要性: 【公正に行いなさい。それはアッラーへの敬虔に最も近いものである。】(Q5 章 8 節)。

・善行と寛容: 【善行と悪行は同じではない。(人が悪をけしかけても) 一層善行で悪を追い払いなさい。そうすると、互いの間に敵意ある者でも親しい友のようになる。】(Q41 章 34 節)。

5. さいごに

・社会全体によるクドワ・ハサナの実践:

社会全体が良き模範を示すことで、正義、慈愛、謙虚さといった価値を促進し、これらを次世代へとつなぐようにする。

・各人の能力に応じた行動の奨励:

預言者の言葉《信仰には70以上、もしくは、60以上の部分がある。その最善なるものは、アッラーの外に神はないと証言することであり、最も小なる信仰とは道路から邪魔になる物を片付ける行為である。羞恥心も信仰の一つである。》

【アッラーは誰にも、その能力以上のものを負わせない。】(Q2 章 286 節)